

1 論文の構成

表紙、本文目次、本編、注釈、参考文献、資料一覧※、資料※、図版一覧（番号、作者名、タイトル、技法、年代、所蔵先、出典(執筆者作成・撮影などを含む)）※、図版※、発表論文リスト※の順とする。

参考文献は年代順に並べること。※は、ある場合のみ添付すること。

2 タイトル・副題

タイトルに副題をつける場合は、最初と最後に「―（全角ダッシュ）」を使用する。

[例] 工部美術学校の研究 ―イタリア王国の美術外交と日本―

3 章・節・小節

章 第1章 : 全角算用数字（章の後一文字空けて章のタイトルを記入）

節 第1節 : 全角算用数字（節の後一文字空けて節のタイトルを記入）

小節 : については、任意とする

なお、章末と節末は一行あけること。

4 注と引用文献の書誌情報の書き方

末尾にまとめて注ならびに引用（又は参考）文献を記載する。引用文献等は注の中であわせて記してもよい。

原則 Word ソフトの機能を用いて注を入れること。

(一) 本文中の注の付け方 半角算用数字 [例] ～だった¹²。(注の番号は句読点の前におく)

(二) 末尾の注釈における表記 半角算用数字 [例] 12 赤井哲郎『京都の美術史』思文閣出版、1989年、p. 238。

和文の注・引用文献の形式は下記のとおり

①著者名、「②論文名」③編者名『④本・雑誌の題名』、⑤翻訳者名、⑥出版社名、⑦年、⑧ページ。

[例1] 赤井哲郎『京都の美術史』思文閣出版、1989年、p. 238。

[例2] 赤井哲郎前掲書 p. 124。／pp. 105-110。(p.の後、pp.の後に半角空ける)

[例3] 雑誌... 北原敦「日常実践の歴史学へ」『思想』848号、1995年2月。

[例4] 書籍所収論文... 二宮宏之「フランス絶対王政の統治構造」吉岡昭彦・成瀬治編『近代国家形成の諸問題』木鐸社、1979年、pp. 5-20。

[例5] 同一著書及び論文に複数の前掲書がある場合は次のとおり記述すること。

著書：赤井前掲書(8) 論文：鈴木前掲論文(12)(全角丸括弧に半角算用数字)

欧文の注・引用文献の形式は下記のとおり

① 著者名, "②論文名", ③編者名, ed., ④本・雑誌の題名(イタリック体), ⑤出版社のある都市名,

⑥出版社名, ⑦年, ⑧ページ。

[例1] Alexander Dallin, *The Soviet Union at the United Nations, an Inquiry into Soviet Motives and Objectives*, New York, Frederick A. Praeger, 1962, p. 65. (p.の後に半角空ける)

[例2] Rosalind Krauss, "Sculpture in the Expanded Field", *October*, vol. 8, Spring, 1979.

[例3] 同一著書に複数の前掲書がある場合は次のとおり記述すること。

Krauss, *op. cit.*, pp. 6-10. (*op. cit.*はイタリック体、*cit.*の前に半角空ける)

インターネットを参考にした場合

[例] 文化庁 HP <http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/index.html> (2019年8月31日閲覧)

(全角丸括弧に半角算用数字で年月日を表記)

5 図・表の番号と題（キャプション）

図・表には、一論文内でそれぞれ通し番号をつけ、番号の後に題（キャプション）をつける。

（一）図 [例] （図1）会場レイアウト : 全角丸括弧に半角算用数字（空きを作らずキャプション記入）

（二）表 [例] （表1）参加者の属性 : 全角丸括弧に半角算用数字（空きを作らずキャプション記入）

6 数字の表記はすべて半角で記述すること。

年号

[例] 1910年、平成5年

日付

[例] 平成13年2月27日、2004年1月1日

世紀

[例] 19世紀、20世紀、5世紀

単位

[例] 285 cm、2.3 g

7 文字のフォントは、和文はMS明朝体、英文はArialを使用してください。

※本文中内では表記を統一すること。

※本論文執筆ルールに記載されていない事項については自由裁量。不明な点は指導教員に相談すること。